

越後佐渡おもひろ歴史ばなし

代議士 山際敬雄の想い

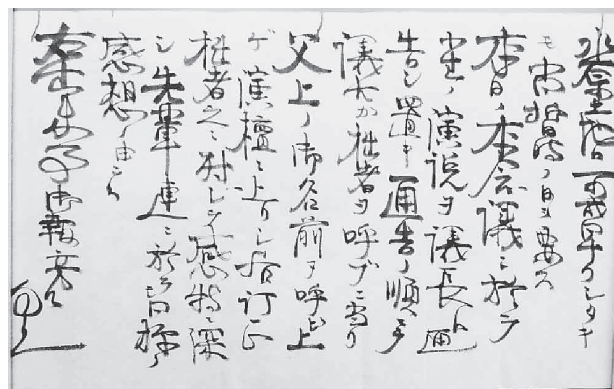
西蒲原郡選出の衆議院議員山際^{よしお}敬雄は、議員最終年にあたる明治45年（1912）の第25議会で、活発に政治活動を行いました。2月21日に第141号「狩猟期間延期ノ件」で、越後・越中・信濃の国境沿いの狩猟期間を4月30日まで延長する議案の紹介議員になっています。3月5日には第353号「信濃・阿賀野両河川治水ノ件」で、両河川流域を長年悩ましてきた洪水を「完全ナル工事」で改修する議案の紹介議員になりました。3月7日には、第280号「上越鉄道敷設速成ノ件」の紹介議員にもなっています。

しかし、この議会で敬雄がもっとも力を入れたのは、敬雄ほか10名が2月7日に提出した「羽越沿岸鉄道建設ニ関スル建議案」(現在の羽越本線)でした。議案提出の理由を敬雄は、日本海沿岸は冬季に「天然ノ虐待」を受けており、海上は、数ヶ月間風波が常に強く船舶の航行が絶え、陸上も数尺（1尺は約30.3センチ）の積雪におおわれ交通が遮断すると指摘していました。その解決策として「文明ノ利器」である鉄道建設を訴え、未建設の新発田－秋田間の敷設を請願しました（「衆議院議事速記録」第6号）。日本海沿岸住民の悲願を、敬雄は議会で訴えたのです。しかし実際に羽越本線が全通するのは、敬雄の議案提出から13年を経過した大正13年（1924）でした。いかに鉄道事業の完成が、難事業であったのかわかります。

さて、この議案提出でちょっとしたハプニングが起こります。それは2月22日、衆議院議長大岡育造が敬雄の名前を間違え、父山際^{しちじ}七司の名前を読み上げたのです。この時の模様を、敬雄は弟の和雄に次

のように伝えています（明治45年2月22日付 山際敬雄書状 山際和雄宛、以下本文は現代表記）。

「本日の本会議で、私の演説を議長へ通告しました。通告の順番で議長が私を呼ぶにあたり、父上の御名前を呼び上げ、演壇にのぼった後訂正しました。私は、父親の名前を聞き、強い想いにかられました。先輩の議員連も、同様の感想を抱いたそうです。」



【山際敬雄書状 山際和雄宛

(明治45年2月22日付)】(整理中)

敬雄の父山際七司は、自由民権家として全国的に著名な人物でした。しかし、第1回衆議院議員選挙で当選後の翌24年（1881）6月9日、42歳の若さで急逝します。この時敬雄は19歳、山際家の長男としてその後苦勞を重ね、ようやく明治41年（1908）に衆議院議員に当選しました。この間の苦勞が、敬雄の脳裏をかすめたのです。ちなみに、議長大岡の名前読み間違いは「速記録」に記録されておらず、なぜ間違えたのか不明です。さっそうたる敬雄の立ち居振る舞いに、大岡が往年の七司をかさねたのでしょうか。今となっては、誰もわかりません。

※新潟県立文書館HPに掲載中

平成30年度特別企画展から 「幕末から明治へ ―激動の時代と越後・佐渡―」

文書館では、平成30年10月30日（火）から11月11日（日）の期間、特別企画展「幕末から明治へ―激動の時代と越後・佐渡―」を開催し、当館が所蔵する資料を4つのテーマでご覧いただきました。展示資料から代表的な資料をご紹介します。

1 異国船渡来と越佐～海防と開国～



18世紀後半以降、異国船が日本周辺に頻繁に出現しはじめます。この状況は、越後・佐渡に異国船に対する海岸防備や軍事力の強化を促しました。また、幕府の直轄地となっていた新潟湊は、日米修好通商条約により開港地の候補の一つとなりました。そのためにさらに新潟の海岸防備が行われるようになります。

【英国海軍測量海図】（請求記号CE9201）

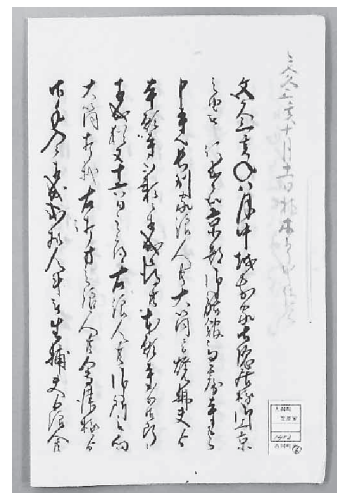
安政5年（1858）の修好通商条約に開港地の候補として新潟とその補助港の佐渡の夷・小木などが挙げられると、その調査のため外国船が新潟へ来航しました。安政5年9月30日佐渡北端鷺崎沖に現れ、夷・小木港などを測量、10月9日新潟へ入港した英国海軍の測量によるもので、海岸のアウトラインは日本政府提供の地図によると書かれています。

2 激動の幕末と越佐～兵制改革と伝えられた幕末の動乱～

越後各藩は、洋式兵術の採用などによる兵制改革とともに、砲術の稽古や銃砲（小銃と大砲）の製造などを行いました。また、各地では様々な事件が発生し、その事件の様相は、口伝えや書状などで越後へも伝わってきていました。大庄屋や肝煎の残した資料には、京都の情報があり、積極的に情報を収集していたと考えられます。彼らは、それらの情報を活かして激動の時代に対応していききました。

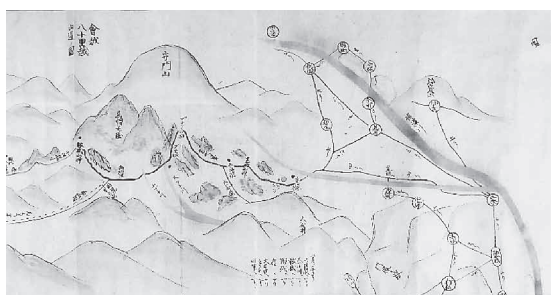
【〔8月18日政変ほか〕】（請求記号F18-1403-6）

八月十八日の政変前後の京都の状況を記したものです。朱筆で「文久三亥十月十一日植木よりかり請写（文久3年10月11日植木より借り請け写す）」とあり、事件をまとめた記録を筆写したものになります。



3 戊辰戦争と越佐～鳥羽伏見から越後へ～

鳥羽・伏見の戦いに勝利した新政府軍は東へ勢力を拡大し、やがてその勢いは越後と佐渡にも及びました。



越後諸藩は新政府への対応を模索しつつ、会津藩の救済を目的に米沢・仙台藩を中心とする東北諸藩と連携を図ります。新政府が会津藩の謝罪を却下すると、5月に奥羽越列藩同盟を結成し、東北・越後の各地で激しい戦いが始まりました。

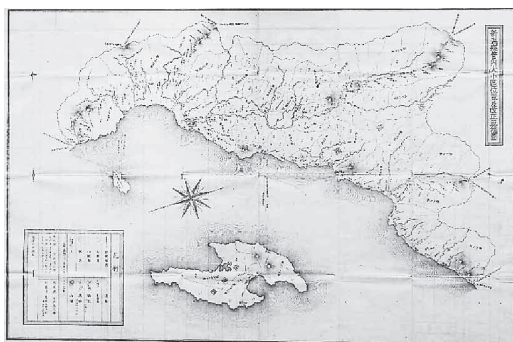
【会越八十里越山道絵図】（請求記号：E0806）

八十里越は、吉ヶ平（現三条市）と福島県叶津を結ぶ8里ほどの旧道で、山間の難路のため1里を10里にたとえて、こ

う呼ばれました。古くから越後と会津を結ぶ大切な道でしたが、急峻で牛馬が通れない狭い道でした。長岡城再落城で負傷した河井継之助も八十里越を通り番屋山で「八十里腰抜け武士の越す峠」の句を残し、会津塩沢村で42才の生涯を閉じました。

4 明治のはじまりと越佐～新潟県の成立～

明治のはじめ、越後の行政機関はめまぐるしく変遷しました。明治4年（1871）7月に廃藩置県が断行されて、越後国・佐渡国内に13県が成立します。同年11月、さらに新潟県・柏崎県・相川県の3県に統合されました。そして、明治6年（1873）には柏崎県が廃され新潟県へ合併されました。さらに、明治9年（1876）に相川県も新潟県へ合併されました。



【新潟県管内大小区位置及改正里程図】

（請求記号E9312-1-20）

明治9年（1876）、新潟県が調査作成した大区・小区を示す地図です。裏面には新潟県治一覧表があり、官庁や地理、輸出入などの状況がまとめられています。

特別企画展で展示した主な資料

1 異国船渡来と越佐	遠見御番所御地取切平均入用目論見帳 岩野組鉢崎村（弘化2年6月） 台場絵図面（近世）
2 激動の幕末と越佐	軍事之節組村役人等御遣立可相成旨御達一件留書帳（元治元年） 〔高田藩長州戦争につき書留〕（近世）
3 戊辰戦争と越佐	蛾術楼日記（慶応4年） 会津桑名軍宿陣中諸事控（慶応4年）
4 明治のはじまりと越佐	御一新御改革筋始品々御達諸件留書帳（明治3年） 東蒲原郡引受書（明治19年）

「越後佐渡ヒストリア（第3集）」の刊行について



平成31年3月1日に「越後佐渡ヒストリア（第3集）」を刊行しました。「越後佐渡ヒストリア」は新潟県立文書館のホームページ上に掲載されている歴史コラムで現在85話まで掲載されております。冊子化の要望にお答えする形で、第1・2集を刊行していましたが、この度、第3集（49話～72話までを収録）を刊行いたしました。

ホームページに掲載されている内容に加筆・修正を加えた冊子版「越後佐渡ヒストリア（第3集）」については、平成31年4月以降、県内の小・中学校、高校、文化施設等に配布する予定です。数量は限定される形となりますが、一般の方向けに無料配付も行う予定です。

冊子を希望される方は文書館閲覧室にお越しください。（※配付は文書館閲覧室に、直接、来館した方に限らせていただきます。郵送等の申し出には対応できませんのでご注意ください。一般の方向け無料配付は、在庫がなくなり次第、終了となります。）

平成31年度 文書館開催講座一覧

◆次年度(平成31年4月1日～)の主催講座をご案内します。

○古文書解読講座

時間はすべて13:30～15:30 受講無料(但し資料代100円が必要)

講座名	日程	時間	定員	申込開始日	会場
はじめての古文書解読講座(春季)	5/15(水)・5/22(水)・5/29(水)	120分	15名	4/16(火)	制作演習室
はじめての古文書解読講座(夏季)	7/13(土)・7/20(土)・7/27(土)	120分	15名	6/13(木)	制作演習室
はじめての古文書解読講座(秋季)	11/14(木)・11/21(木)・11/28(木)	120分	15名	10/11(金)	制作演習室
はじめての古文書解読講座(冬季)	1/15(水)・1/22(水)・1/29(水)	120分	15名	12/13(金)	共同研修室1・2
古文書初級解読講座(夏季) A	6/26(水)・7/3(水)	120分	各60名	各コースとも5/24(金)	大研修室 ※A・Bともに同内容
古文書初級解読講座(夏季) B	6/28(金)・7/5(金)				
古文書初級解読講座(冬季) A	12/4(水)・12/11(水)	120分	各60名	各コースとも11/1(金)	大研修室 ※A・Bともに同内容
古文書初級解読講座(冬季) B	12/7(土)・12/14(土)				
古文書解読講座(夏季)	8/21(水)・8/28(水)	120分	各180名	7/19(金)	ホール
古文書解読講座(冬季)	2/19(水)・2/26(水)			1/17(金)	ホール

○「新潟県の歴史」講座

時間はすべて13:30～15:30 受講無料

講座回	日程	時間	定員	申込開始日	会場
第1回	6/29(土)	120分	180名	5/17(金)	ホール
第2回	11/30(土)	120分	180名	10/18(金)	ホール
第3回	3/7(土)	120分	180名	1/28(火)	ホール

時間はすべて13:30～15:00 受講無料

講座回	日程	時間	定員	申込開始日	会場
第1回	9/5(木)	90分	180名	8/2(金)	ホール
第2回	10/9(水)	90分	180名	9/6(金)	ホール
第3回	12/18(水)	90分	180名	11/15(金)	ホール

○特別企画展解説講座

時間はすべて13:30～14:30 受講無料

講座コース	日程	時間	定員	申込開始日	会場
Aコース	10/30(水)	60分	各60名	各コースとも9/27(金)	大研修室 ※A・Bともに同内容
Bコース	11/6(水)				

アーキビスト 文書館職員随想

1月に国立公文書館主催のアーカイブズ研修Ⅱに参加しました。全国の文書保存活用機関で働く人々が集まり、テーマに沿った講義のほかにグループ討論を行いました。今年のテーマは、「公文書館等における普及啓発及び歴史公文書等の利用促進等について」で、特に広報と連携についての研修でした。地域の公文書や歴史資料を保存している様々な機関の方々と意見交換できたのは良い刺激となりました。

今回の研修のテーマである連携ですが、グループ討論では教育との連携が話の中心でした。新学習指導要領でも、高等学校地理歴史科の中に「公文書館」が初めて登場しましたし、文書館と学校教育との連携はこれから求められていくものだと感じました。地域に残る文書は、地域の記憶であり、地域の歴史を伝える存在です。そのような活字化されたものではない「生」の歴史資料を手にとってみられるのは、当館の利点になります。ぜひ、多くの若者に歴史資料に触れて、地域の記憶を感じてほしいです。そし

て、必要な資料が提供できるように、しっかりと保存していかなければと思います。保存なくして利用なし、です。

昨年11月の特別企画展で、ある来場者から「このような資料があることを初めて知った。よく残っていた」という言葉をいただきました。平成の時代まで大切に受け継いでこられた所蔵者の方の家の力とそれを引き継いだ文書館の仕事の両方があってこそ、聴くことができた言葉だと思います。これからも「よく残っていた」と言われるよう資料保存に努めていきたいと思っています。

【田宮記】

編集・発行 新潟県立文書館

〒950-8602 新潟市中央区女池南3丁目1番2号
TEL 025-284-6011 FAX 025-284-8737
URL http://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page_id=569
E-mail archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp